

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：にこにこすまいる園	種別：地域型保育事業（小規模保育事業A型）
代表者氏名：藤原 和美	定員（利用人数）： 10（9）名
所在地：〒226-0019 横浜市緑区中山一丁目29番3-101号	
TEL：045-507-9266	ホームページ： http://nursery.smilecrew.co.jp/hoiku/nikoniko-smile-en/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社スマイルクルー	
職員数	常勤職員： 4名 非常勤職員 8名
専門職員	園長： 1名 保育士： 8名
	栄養士： 1名 調理員： 1名
	管理者： 1名
施設・設備 の概要	0歳児室： 1室 1歳児室： 1室
	2歳児室： 1室 調理室： 1室
	医務室： 1室 幼児用トイレ： 1個

③理念・基本方針

【保育理念】

・enjoy! 子育て

子育ては、みんなでやればもっともっと楽しくなります。ともに分かち合うことで、子どもの可能性がぐんと広がります。

・think! 生きる力

子どもが発する「なぜ？」「どうして？」を大切にし、失敗を恐れずに行動する気持ちを育てます。子どものありのままを受け止め、見守ることで、自ら考え生み出していく力を培います。

・natural! 健康な身体

自分が自分らしくいられるように、【みる・きく・ふれる・あじわう・かんじる】五感、直感、感性を大切にします。

【保育方針】

- ・働く保護者の視点に立ち、子育てを共に考えます
- ・子どもが自主的に考え、行動できる姿を目指します
- ・心身ともに健康で、自然体でいられる環境を整えます

【保育目標】

- ・健康で明るい子ども
- ・友達と仲良く遊べる子ども
- ・心豊かな子ども

- ・意欲と思いやりのある子ども
- ・強く生き抜く事ができる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

【子どもの様子について職員間で周知し、子どもの成長につなげています】

園では、周知ノートと呼ばれる情報共有ノートを使用し、職員間で一人ひとりの子どもの様子を把握しています。周知ノートには、登園の際の子どもの状況や日中の様子などを職員が自由に記述し、全職員が出勤後に確認する体制となっています。日中の様子では、子どもが意欲的に取り組んでいたことや、友だちに対して優しい言葉をかけたことなど、職員が感じた一人ひとりの子どもの様子を書くことで、その場で褒められるだけでなく、ノートを確認した職員から褒められることにもつながっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年 6月 21日（契約日） ～ 令和4年 1月 26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（今回は初回）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【子どもの興味や関心に応じて保育環境を見直し、遊び込める環境づくりに取り組んでいます】

園では子どもの発達や興味関心に応じて、十分に遊びこめる環境づくりを行っています。日々の子どもの様子について、職員会議や保育会議で共有するとともに、月1回実施される園内研修において、職員間で環境設定の共有を行い、具体的な実践につなげています。室内は、ごっこ遊びのコーナーや、机上遊びのコーナー、ソファでゆったりと絵本を読むことのできるコーナー、また身体を動かしたい時は、ウッドデッキや別室にてトランポリンや牛乳パックで作った平均台で遊ぶなど、一人ひとりの子どもが、自分のしたい遊びができる環境を整えています。各コーナーは子どもの興味や遊びの様子に応じて、ごっこ遊びコーナーに人形を寝かせるベッドやおんぶひもを用意したり、机上遊びのコーナーに手作りの型はめやパズルなどを用意するなど、玩具の見直しと、環境設定を随時実施しています。

【研修を積極的に取り入れ、職員一人ひとりのスキルアップにつなげています】

園では毎月の園内研修のほか、外部研修を積極的に受講し、各職員の技術の研鑽に取り組んでいます。年間を通して、全職員が平均して4～5回程度の研修を受講し、研修内容は職員会議等で共有されています。研修を受講する際は、勤務時間内で受講できるようシフトづくりにも配慮しています。これらの取り組みにより、発達サポーターや早期発達支援士、食育インストラクターなど様々な資格の取得にもつながっています。

【食育活動等を通して、子どもたちが食についてさまざまな体験ができるよう配慮しています】

園では、鶏卵、牛乳、小麦の3大アレルゲンを使用しない献立を作成しています。そのため、お代わり分も含め、他の子どもたちと相違なく提供しています。また、系列園の栄養士が集まり実施される会議等で、子どもたちの食べ具合等を共有し、献立の工夫に

つなげています。例えば、キュウリを千切りではなく棒状に切るなど、食材の切り方や味付けの工夫を行っています。食育活動は、カボチャを袋に入れてつぶすなど、食材に触れる機会を多く設けるなどの取り組みが行われています。また、いわしを見たり触ったりし、給食でいわしハンバーグを提供することや、カブやキュウリ、ナス、ピーマンなどの野菜を育て、収穫して給食で提供することなどが実践されています。

◇改善を求められる点

【地域福祉ニーズにもとづいた、園独自の取り組みが期待されます】

園では、区の施設長会議や見学者の対応等から、地域の福祉ニーズの把握に努めています。把握された内容をもとに、区が主催する、みどりっこまつりに園の職員が参加し、絵本や紙芝居の読み聞かせ、また園の献立レシピ等の紹介を行っています。地域の関わり方については、重要事項説明書に記載されています。重要事項説明書では、地域の育児支援として自治会行事への参加、周辺小中学校との交流、散歩を通じた地域住民の方との関わり合い、地域資源の活用等が述べられています。今後は、重要事項説明書に記載されている内容をもとに、地域の福祉ニーズと照らし合わせ、園で可能な取り組みを検討し、実施されることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園での自己評価が低いと思っている所が良い評価であったり、またその逆もあった。自己評価を実施して気付いたことは、自園の理解が少々貧しいということです。きちんと理解したうえで、更に良い園を目指したい。今回は本当にありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり